

## (有)みどり農園 代表取締役社長

## 村田喜昭さん

## 明日へ向かって駆ける

## 農業法人の経営者は語る

来園者は農作業を通じて自然を満喫する、私たちは経営が成り立つ、そして里山が守られる」と話するのは、都市交流型観光農園を営む(有)「みどり農園」代表取締役社長の村田喜昭さん(71)。

同社は、大阪・奈良・京都の都市に近い井手町多賀地区の里山で、都市住民に農作業や収穫体験、野外バーベキューを楽しんでもらう経営を行う。

村田さんが観光農園を始めたのは1976年の32歳の時だった。当時から農産物を生産・出荷するだけではなく、消費者との結び付きをいかに築いていくのかを考え

続けていた。人口が急増する大阪のベッドタウンに近いことに着目し、自分が消費者に近づくのではなく、消費者を呼び込もうと考えた。従来から栽培していた柿30畝とミカン20畝で収穫体験をしてもらい、バーベキューも楽しんでもらう。これをセールスポイントにして「みどりの農園」の看板でスター

トした。

また観光農園が珍しく、いろいろなメディアにも紹介されて来園者は順調に伸びていった。しかし、「新しい仕掛けを打ち出していないと飽きられてしまう」と村田さんは考え、約3畝の園内に、自力でイチゴやブドウのハウスやバーベキュー小屋を増設してき

た。90年の菌床シイタケ栽培のハウス建設を期に、義弟の岩田剛さん(71)と実弟の岩城喜和さん(65)の3人で法人化した。

現在は、春はタケノコやイチゴ、秋は栗やブドウ、シイタケなど多彩な収穫が楽しめる。いずれも野外バーベキュー付きで大人3500円、小学生以下3000円(税別)。また農具や種苗、肥料の全部を農園が準備して作業指導も



▶たわわに実ったブドウの手入れに励む村田さん

## 四季通じ農業体験を

行う「野菜の体験農園」を1区画(約20平方メートル)年額55000円(税別)で随時受け付けている。妻の美佐子さん(67)が来園者の受付やバーベキューの準備などを切り盛りし、長男の誠さん(44)も経営に参加している。春と秋にはパートタイマーを雇用。幼児から中学生の家族連れを中心に年間約1万人が訪れ、約6割がリピーター(再来園者)だ。

村田さんは「年間契約の来園者を増やして、四季を通じて農業体験を行ってもらい、もっと里山の自然・味覚を満喫してほしい。これは長年、農園の経営をしてきた私の夢であり、次代へと引き継いでいかなければならない責務だと考えている」と話す。

■法人所在地 綴喜郡井手町多賀 東南組41。電話0774(82)2654。

■法人概要 1990年2月設立。役員3人、社員2人、パートタイマー6人。観光農園面積3畝、シイタケ鉄骨ハウス1棟、イチゴハウス3棟、バーベキューハウス棟(200席)。各コース・料金はホームページ(<http://midorinouen.com/>)参照。